事業所名 グループホーム　のどか

(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日　付　　平成17年10月28日

評価機関名 (株)東京リーガルマインド

(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員

A:現職　　医療施設管理者

資格・経験 特別養護老人ホーム生活相談員歴3年以上、臨床工学技士

B:現職　　民間教育機関講師

資格・経験 介護支援専門員、ホームヘルパー2級

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります！)

(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など (記述)

○法人内の異動等により昨年からの職員がほとんど一新されていたが、以前と変わらず高い水準での介護サービスの提供が維持できている。代表者の認知症介護に対する情熱（理念）が職員に充分浸透できていることがうかがえた。

○民家改造型である建物の空間の持つ「癒しの効果」を最大限に活用し、グループホームに求められる「家庭生活の延長」を実現している。その上で在宅における認知症介護の限界と問題点を踏まえ、認知症に対する専門的なケアを実践しグループホームの役割を追及する真摯な姿勢と思いが介護サービスに反映されていた。

○ホーム全体が自由で開放的な雰囲気にあふれており入居者と職員とが楽しんで「生活」を営んでいた。

○一人一人の職員が常に「考えて行動する」姿勢で業務に従事しており、入居者に対する自然な見守り（気配りと目配り）の徹底した介護サービスが提供できている。
　さらに日常の業務遂行に際して馴れ合いにならないよう、入居者・家族に対する接遇を心がけていることによりお互いの会話の中に信頼関係が感じられた。

○精神的な拘束感が全くなく、ホームの立地（住宅地・季節を感じられる環境）条件も整っており、穏やかな雰囲気の中で入居者の情緒安定がはかられている。（入居者の方の落ち着いた表情から感じられた）

○通所介護サービス（デイサービスセンターのどか宅老所）の併設により入居者・利用者同士の交流が盛んである。
　入居者同士がお互いに声掛けをし助け合う光景も見られ、認知症ケアのための家庭的環境下での自立した日常生活の援助がなされていた。

特に改善の余地があると思われる点 (記述)

特になし

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目 **グループホームとしてめざしているものは何か (記述)**

○グループホームの社会的役割である大規模施設では実現し得ない「家庭生活」の延長線上の介護サービスの提供を目指し、実践している。

○職員もタイムスケジュールに追われることなく、入居者と一緒に生活を楽しみながら「人間 対 人間」の関わりのなかでの認知症介護を志し、「認知症」という疾患を生活面から理解した上で、問題行動も入居者の個性として正面から向かい合って介護する姿勢で取り組んでいる。

○入居者ひとりひとりがその人らしく生活しようとする「人としての当たり前の思い」に応えるべく、「入居者本人の前向きな姿勢を引き出すお手伝い」をホームの理念として全職員に周知徹底できているので職員もやりがいを感じながら業務に従事していた。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目 **入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か (記述)**

○日常的な家庭を意識したリビングルームは、南向きで天窓があり、自然光による最高ができている。自然な明るさが「家庭」そのものの雰囲気をかもしだしており、一戸建ての民家を改築したという利点を最大限に上手く活用しながら入居者が落ち着ける空間であった。
○木造建築で畳の居室もあるが通気・換気も良く、清掃が行き届いており生活臭などは無かった。
○玄関は勿論、居室などの生活空間に施錠をしておらず、入居者が「管理されている」という拘束感がないため、自然に自由に生活できる雰囲気であった。その上で入居者の安全を守るための職員による見守りを徹底するよう取り組んでいた。
○共有空間の中には、入居者が一人でくつろいだり、気の合う人同士で自由に過ごすことのできる場所（ソファ）が確保されていた。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス (つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目 **一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か (記述)**

○入居者ひとりひとりの「認知症」という疾患をその人の個性として捉え介護サービスを提供することにより、個人の尊重に努めていることが感じられた。

○家族同士の信頼関係をグループホームに実現させるべく、単なる業務の遂行ではなく入居者と職員のつながりを大切にする努力がされていることが様々な会話や記録から確認できた。

○職員は入居者の発語をしっかりととらえ、本人の思っている現実を決して否定することなく意思を尊重する姿勢が見られた。声かけの際にも入居者に敬意を払う言葉遣いがなされていた。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目 **サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か (記述)**

○代表者をはじめ管理者・職員が現状に満足することなく、よりよい介護を目指してサービスのあり方を常に改善していこうとしている姿勢がみられる。入居者の５年後・１０年後を見据えた環境作りに取り組んでいた。
○職員の働きやすい環境を実現することが、入居者への室の高いサービス提供につながるという代表者の考えが労務管理にも反映されており職員からは「働きやすい」という言葉が聞かれた。
○サービス向上のために研修会等にも積極的に参加し、向上心が伝わるホームであった。
○ホームの弱点（建物構造など）を理解した上で介護する姿勢と創意工夫する姿勢が常に感じられ、入居者本意の生活実現のための取り組みがなされていることがうかがえた。
○日頃から医師の指示のもと緊急時のマニュアル等を作成し、職員同士の話し合いや各種の詳細な記録を通じて問題点の発見に努めていた。